



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.342
2023.10.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【雀色】雀の頭のような赤みの褐色。

雀頭色(じゃくとういろ)とも言う。褐色系の色が流行した江戸時代に生まれた色名。空が夕焼けからもっと薄暗くなった夕暮れを指す「雀色時(すずめいろどき)」という言葉もあり、春の季語になっている。ただし、夕焼けが美しいのは夏のため、こちらは夏の季語。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ岡山セッション参加者募集

令和6・7年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

令和6年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集

令和5年度「公共ホール邦楽活性化事業」スタート

今月の情報..... 7

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

石川県珠洲市

金沢21世紀美術館「劇的! バスツアー2023」

●令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」

ジャンルを越境したアウトリーチプログラムづくりと アウトリーチの実施

令和5・6年度
公共ホール
創造ネットワーク
モデル事業



地域創造では、これまで実施してきた「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」(以下、アウトリーチフォーラム事業)と「公共ホール演劇ネットワーク事業」での取り組みを踏まえ、より発展的で多様な企画づくりができる2カ年事業「公共ホール創造ネットワーク事業」(以下、創造ネット)を新たに立ち上げ、昨年度からモデル事業に取り組んでいます。

この事業は、公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と県内連携の強化を図ることを目的に、都道府県等を中心に市町村の公共ホールが共同・連携して実施するものです。アーティストの交流による新たなプログラムの可能性を拓く試みとして、クラシック音楽・現代ダンス・演劇等の複数ジャンルのアーティストとコーディネーターを派遣し、相互理解を深める研修を行いながら、新たなアウトリーチプログラムおよび創作による公演を支援します。

令和4・5年度の神奈川県(公益財団法人神奈川芸術文化財団)に次いで、モデル事業の2地域目となる令和5・6年度は和歌山県を中心に3町(かつらぎ町、上富田町、串本町)が参加し、初年度事業としてアウトリーチプログラム

づくりを行いました。

●クラシック音楽と現代ダンスが交流したプログラム

アーティストは、和歌山県在住のヴァイオリニストの北島佳奈さん(公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト)、セレノグラフィカの隅地菜歩さんと阿比留修一さん(公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト)です。加えて、コーディネーターとしてリージョナルシアター事業のアドバイザーでもある岩崎正裕さん(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)がクリエイターチームに参加しました。

まず、5月8日・9日に県、参加3町の担当者、アーティスト等が一堂に会した研修会が行われました。アーティストそれぞれの模擬アウトリーチ体験やレクチャーで理解を深めた後、6月と10月の2回に分けて和歌山県民文化会館に計7日間滞在し、新たなアウトリーチのプログラムづくりを行いました。そして、10月10日から13日まで上富田町の小学校4校で新プログラムでのアウトリーチを実施しました。いずれも小学校5年生が対象でしたが、おんかつ

写真

- 1: アウトリーチプログラムづくりの様子
- 2: ランスルーの様子(北島佳奈さん)
- 3: 小学校でのアウトリーチの様子(上富田町立岩田小学校)
- 4: 同上(上富田町立朝来小学校)

●公共ホール創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ
芸術環境部 栗林・岩崎
Tel. 03-5573-4076

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

やダン活のアウトリーチとは異なる景色が展開されていました。

今回のプログラムは授業2コマ分の90分で実施するもので、題して「音楽とダンスの追いかけっこ」。前半は音楽室で北島さんが地元出身ならではの親しみのこもった言葉づかいで音楽アウトリーチを行い、その時間の最後にはセレノグラフィカのダンスもコラボした後、子どもたちは阿比留さんの先導で探険のように体育館に移動。後半はセレノグラフィカによるダンスワークショップ。途中から再び北島さんが合流して、ダンサーと子どもたちのワークに生演奏で加わり、最後は全員が床に身体を横たえて『カノン』に耳を傾けるという構成で行われました。

登場と同時に演奏する軽快な『ワルチング・マチルダ』に始まり、子どもたちのすぐ側まで行って演奏する『チャルダッシュ』、同じ旋律を繰り返すカノン形式によるフランク作曲の『ヴァイオリンソナタ』第4楽章の圧倒的な演奏で心も身体も高まった子どもたちは、言葉のないダンスの世界に誘われていきました。セレノグラフィカによるコミカルなウェルカムダンスを楽しんだ後、シンプルなルールで身体を動かしていくうちに、やがてそれがダンスの種となり、最後は音楽とのコラボレーションを体感しながら、心から音楽とダンスを楽しんでいました。実施した学校の先生からも「子どもたちは大事なことを教わった。これから自分たち一人ひとりの個性を大切にしていって欲しい」と話していました。

岩崎さんは、「コーディネーターの役割はアーティストの対話を誘発すること。今回のプログラムでは、お互いのよさを活かしながらジャンルを越境することを標榜した。ジャンルによる常識の違いはあったが、対話によってこの場のルールが生まれたのではないかと思う。子どもたちには音楽を聴くことと身体を動かすことは矛盾しないというのを伝えたかった」と振り返っていました。

和歌山県は2010、11年度にアウトリーチフォーラム事業を実施した実績があります。当時事

業を誘致し、今回の事業の実施を決めた田嶋安紀子さん(現・行政管理課長)は、「和歌山でもアウトリーチのような事業をやりたいと思っていた。アウトリーチフォーラム事業が、県が市町村の会館と一緒に取り組める唯一の事業だった。県内すべての市町村に声をかけ、最初のセミナーにできるだけ参加してもらった。会館を持っている市町村のうち、来られなかった1市には、近隣で行われたアウトリーチを見学してもらった。また、1町には写真やDVDなどを用いて説明を行った。アウトリーチフォーラム事業に参加した6館中4館が、その後おんかつ事業を活用してアウトリーチを継続している。アウトリーチフォーラム事業はクラシック音楽の事業だったが、今回の複数ジャンルによる新しい試みにも興味があり、実施を決めた」と県として手応えを感じているとのことでした。

今回の担当者である文化学術課文化企画班班長の前田安宏さんは、「最初は、参加する町にこれまでの経験の違いによる温度差があった。しかし、アーティストがジャンルの違いを乗り越えて真剣に議論し、下見などの準備に立ち会ううちに、共にプログラムを組み上げて実行するという共通認識が生まれていった。身体を動かすワークに音楽が加わってダンスになっていく様子を目の当たりにして自分も感動した」と話していました。

12月には串本町、かつらぎ町でアウトリーチを実施します。今後アーティストと共に構想を練りながら新たな作品を創造して、来年度に公演を行う予定です。ご興味のある方はぜひ地域創造までお問合せください。

令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」令和5年度実施体制

◎実施団体

和歌山県

◎参加自治体

かつらぎ町、上富田町、串本町

◎アーティスト

北島佳奈(ヴァイオリン)

上野絵理子(ピアノ)

セレノグラフィカ(振付家・ダンサー/隅地菜歩、

阿比留修一)

◎コーディネーター

岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

◎アウトリーチプログラム実施先

●上富田町:10月10日~13日

岩田小学校、市ノ瀬小学校、朝来小学校、岡小学校・生馬小学校(合同)

●串本町:12月5日~8日

串本西小学校、大島小学校、古座小学校、串本小学校、西向小学校、田原小学校

●かつらぎ町:12月18日~20日

笠田小学校、渋田小学校、大谷小学校、妙寺小学校

財団からのお知らせ

●ステージラボ岡山セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和5年度の後期セッションは、岡山芸術創造劇場ハレノワ(岡山市)にて2コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:2023年11月24日(金)必着

◎ステージラボ岡山セッション概要

[日程]2024年2月6日(火)~9日(金)

[会場]岡山芸術創造劇場 ハレノワ
(岡山市北区表町3-11-50)

[開講コース]ホール入門コース
自主事業コース

[定員]各コース20名程度

[主催]一般財団法人地域創造

[共催]公益財団法人岡山文化芸術創造
岡山市
[後援]岡山県

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

入門コースでは、さまざまな状況の地域から集まった参加者たちで、まずはご自身の状況や考え、悩みをシェアするところから始まります。演劇、ダンス、音楽のワークショップやレクチャーを体験してもらい、参加者同士で意見交換をしながら、今ホールが「やらなくてはいけないこと」「できること」「やりたいこと」をテーマに、今後のご自身の所属する地域やホールの活動を考える上での多様な視座やヒントを得るための4日間のプログラムです。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

セレノグラフィカ

隅地茉歩(振付家、ダンサー)

阿比留修一(ダンサー)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の職員

【コース概要】

視覚情報に偏りがちな日々の中で、身体感覚に着目することはどんな気づきをもたらしてくれるでしょうか。アートの生まれる現場に立ち会おうとする時、「見る目」も「語る言葉」も助けになります。それを生んでいるのは他でもなく「身体」です。もとより企画制作運営は大いに創造的な仕事。現場勘を磨くことに直結する実演と座学の4日間を満喫し、創造脳と創造身体を携えて、皆さんの町と劇場のこれからを描いていきましょう。

◎岡山芸術創造劇場 ハレノワ

岡山芸術創造劇場ハレノワは、「魅せる」「集う」「つくる」をコンセプトとし、文化芸術の創造・発信を通して、文化芸術に親しむ市民、未来の劇場を支える劇場人、アーティストを育てるとともに、まちの賑わい創出にもつなげ、心豊かで活力ある地域社会づくりを目的とし2023年9月にグランドオープンしました。

ハレノワは、特に舞台芸術の上演に相応しい設備が充実し、劇場が自ら舞台芸術をつくり出せるよう、専門的なスタッフが多く配置されています。施設では、中四国で唯一、大劇場(1,753席)、中劇場(807席)、小劇場(最大想定300席)の3つの劇場を備えています。さらに、バレエやダンスの練習や小規模コンサートが可能なアートサロンや、稽古場としても使える11の練習室、チケットを持たなくても自由に出入りのできるロビーやギャラリーなどを備え、岡山の創造的な文化芸術活動を支える新たな拠点の一つとして子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流できる場所を目指しています。

指定管理者:公益財団法人岡山文化芸術創造

●ステージラボ岡山セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>
申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 田之頭・藤原
Tel. 03-5573-4068

●令和6・7年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

実践的な公立美術館運営能力の向上と、公立美術館の相互交流を図ることを目的とした研修事業です。美術館や地域の課題意識に沿って研修テーマを設定し、地域創造の負担で講師を美術館へ派遣します。都道府県単位または、都道府県内外のまとまった地域の複

数の美術館でご参加をいただくため、美術館同士のネットワークの場としてもご活用いただけます。

本事業を令和6・7年度の2年間にわたって地域創造と共催で行う公立美術館を募集します。ご応募をお待ちしております。

募集締切:2024年1月26日(金)必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館(博物館その他の美術作品の公開及び保管を行う施設をいう。以下「公立美術館」という。)が、②のいずれかの形態で参加することを要件とする。

- ①A 地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館
ア 地方公共団体
イ 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
B 地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館
- ②参加する美術館の形態
A 都道府県単位の複数の公立美術館
B 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

【開催地】

原則として、申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

【開催回数・開催時間等】

令和6・7年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行う。

(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)
申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定する。

●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。

●参考:近年開催した研修テーマ

- 常設展の魅力向上と来館者数増加のための施策を考える
- 地域に根ざす文化施設の活動について(文化施設と他の行政分野との連携)
- 来館者の裾野を広げる事業展開の評価方法と地域振興について考える
- 文化施設の連携と職員同士の交流の場づくりについて
- コレクションの活用法/ミュージアムグッズの可能性
- ミュージアム等オリジナルグッズのオンデマンド制作
- アフターコロナの集客方法/集客できるチャリ、SNSの活用法
- 美術館と観光・インバウンド/文化観光拠点化 ウォークイン型(予約なし)体験プログラム
- 美術館とソーシャルデザイン

●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

◎申請方法

当財団ホームページより申請書をダウンロードし、郵送でお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html#boshu>

◎問い合わせ

総務部 三田・管藤
Tel. 03-5573-4184

財団からのお知らせ

●令和6年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師派遣費用を負担する「地域創造セミナー事業」の実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを内容とするもののほか、都道府県下における芸術文化団体の相互連携や、芸術文化団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容等としています。講演会のテーマや内容は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基に決定します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じてワークショップを実施することが可能です。

地域課題の文化・芸術の視点での検討や、地方公共団体をはじめ多様な主体の連携による広域的な文化・芸術を活用した新たな施策等の検討など、これからの地域と文化・芸術を考える上で有益な情報を有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ぜひご活用ください。

募集締切：2023年11月24日(金)必着



令和5年度セミナーの様子(高知県/講師:小林真理氏)

●令和5年度「公共ホール邦楽活性化事業」がスタート

地域に邦楽の魅力を伝えていくため、地域創造が派遣する演奏家による地域交流プログラムやホールプログラムを実施する「公共ホール邦楽活性化事業」。今年度は10月から来年3月まで全国7地域で事業を展開します。今号では10月5日～7日の日程で開催された、熊本県宇土市の模様をご紹介します。

宇土市は、熊本県の中央部に位置する、人口約3万6千人の市です。市内にある宇土市民会館の指定管理者であるNPO法人宇土の文化を考える市民の会が主催となり、箏・三絃・十七絃の藤重奈那子さん、箏・十七絃の遠藤咲季子さん、箏・三絃の森梓紗さんを招いて実施されました。

アウトリーチは児童センターや駅舎など対象も場所も異なる4カ所で、邦楽との出会いやプロになろうと思ったきっかけなどのお話を交え、邦楽の魅力を伝える楽曲を披露しました。

最終日には、「韻-HIBIKI-めくるめく色彩と一音の生命力」と題した公演が開催されました。舞台上に客席を配置したり、客席を三方に取り囲む演出で、演奏家の手の動きや奏でる音を間近で感じることでできるコンサートとなりました。最終曲の『脆性ノスタルジア』では箏・十七絃の特殊奏法による新鮮な音の響きに耳を澄ませながら、

皆さんそれぞれの夏の記憶に思いを馳せていました。アンコールの『おてもやん』では自然と手拍子が生まれ、会場全体が一体感に包まれました。



上:宇土市児童センターでのアウトリーチ
下:コンサートの様子

●「地域創造セミナー」実施要綱・申込書は、当財団ホームページからダウンロードできます。郵送でお申し込みください。

◎問い合わせ
芸術環境部 管藤
Tel. 03-5573-4066

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 森永・矢嶋
Tel. 03-5573-4069

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jfra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

●2024年1月号情報締切
11月24日(金)

●2024年1月号掲載対象情報
2024年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道釧路市

釧路市立美術館
〒085-0836 釧路市幣舞町4-28
Tel. 0154-42-6116 武東祥子
<https://k-bijutsukan.net/>

プチ・コレ[Sence of Blue]

絵画芸術において色彩は、現実の再現や、人間の内面の感覚的な表現などの役割を担っている。本展は、芸術家たちが色彩に対してどのような感覚をもっているかに焦点を置いたコレクション展。広い空と海に囲まれた釧路において表現されることの多い「青色」に注目し、他の文化圏の作家による青の表現などを交えて、色彩の青に対する感覚を紐解く。

[日程] 10月28日～12月10日

[会場] 釧路市立美術館

●岩手県北上市

北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1

Tel. 0197-61-3300 安藤綾乃
<https://www.sakurahall.jp/>

さくらホール動物園～Co.山田うん×きたかみキッズダンスーズ

さくらホールの開館20周年を記念して、公募で集まった約30人のキッズダンサーが自分たちで制作した衣装を身に纏い、山田うんの振付・指導で、動物園に見立てて装飾した館内を練り踊る。小ホールはディスコのような風貌に様変わりし、Co.山田うんのダンサーによるパフォーマンスタイムも設けられている。当日飛び込み参加も可能で、一緒に踊ることができる。

[日程] 11月18日

[会場] 北上市文化交流センター さくらホール

●仙台市

せんだいメディアテーク
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

Tel. 022-713-4483 薄井

<https://www.smt.jp/>

自治とバケツと、さいかちの実—エピソードでたぐる追廻住宅—

戦後、戦争で家を失った人や海外から引き上げた人が暮らし、2023年2月に最後の1軒が解体され青葉山公園へと姿を変えた川内追廻地区。その77年にわたる歴史や自らの手で作り出してきた生活の有り様、街の姿を振り返る展覧会。宮城県出身で追廻地区のリサーチを元にした展示を続ける佐々瞬と、全国各地で地域資源再発掘型の企画に関わる伊達伸明の目線から街の様子を描く。

[日程] 11月3日～12月24日

[会場] せんだいメディアテーク

●山形県大石田町

大石田町町民交流センター虹のプラザ
〒999-4112 北村山郡大石田町緑町28

Tel. 0237-35-2094 大橋武司
<https://oishidaair.wixsite.com/dokidokidancefest>

第1回大石田どきどきダンスフェスティバル

大石田AIR(アーティストインレジデンス)が企画する、大石田町初のダンスフェスティバル。1日目は異ジャンルダンサーたちによる参加型セッション「どきどきダンスナイト」、2日目はドイツからのレジデンスアーティストの公演、最終日は全国各地から集まったさまざまなアーティストたちの作品が1日で楽しめる。キッチンカーやこのフェスティバルでしか体験できないワークショップも予定。

[日程] 11月10日～12日

[会場] 大石田町町民交流センター虹のプラザ

関東

●群馬県みどり市

群馬県教育文化事業団

〒371-0801 前橋市文京町2-20-22

Tel. 027-224-3960 渋谷悠希子
<https://www1.gunmabunkazigyodan.or.jp/>

「音楽×書道×サーカス」石原和二郎メモリアルイヤーアートライブinみどり市

群馬県の地域特性を生かし、若手アーティストを中心にジャンルを超えた「アートライブ」を開催する事業。今回は、みどり市で県内出身の若手音楽家や県立伊勢崎清明高校の書道部、みどり市の沢入国際サーカス学校の在校生と卒業生、ゲストを招き、童謡の父・石原和二郎(みどり市出身)の楽曲や親子で楽しめるパフォーマンスを実施。「音楽×書道」と「音楽×サーカス」の2部構成でお届けする。

[日程] 11月5日

[会場] グンエイホールPAL(笠懸野文化ホール)

●埼玉県草加市

草加市文化協会
〒340-0013 草加市松江1-1-5
Tel. 048-931-9325 手塚雪香
<https://soka-bunka.jp/>

国際ハーブフェスティバル2023 草加市 メインコンサート

1989年より続く国内最大級のハーブの祭典。35回を迎える今年には草加市の音楽都市宣言30周年のメモリアルイヤー。6月から「0歳からのハーブコンサート」や、市内外への出張コンサート、「子どもレバーハーブ教室」などさまざまなイベントを開催。フィナーレを飾る2日間のメインコンサートでは、特別編成ウインドオーケストラによるハーブ協奏曲や、世界で活躍するハーピストとフルーティストCocomiの共演など、スペシャルなプログラムが実施される。

[日程] 11月18日、19日

[会場] 草加市文化会館

●千葉県柏市

柏市民文化会館

〒277-0004 柏市柏下107

Tel. 04-7164-9141 町田

<http://www.kashiwa-sbk.com/>

羽ばたけ未来のヴィルトゥオーソシリーズ Vol.5 ～フルートとピアノで綴るフィギュアスケートの世界～

若手音楽家による室内楽コンサート。サクソフォンカルテット

やピアノコンサートなど回ごとにさまざまな楽器の音色を楽しめるプログラムとなっており、また学生券を設けるなど、幅広い年齢層に生の音楽にふれられる機会を創出している。5回目の今回は、フィギュアスケートの演舞曲としても聞きなじみのあるプログラムで美しい音色を楽しめる内容となっている。

[日程] 12月2日

[会場] 柏市民文化会館

●東京都台東区

東京都美術館

〒110-0007 台東区上野公園

8-36

Tel. 03-3823-6921 大内曜

<https://www.tobikan.jp/>

上野アーティストプロジェクト2023「いのちをうつす ー菌類、植物、動物、人間」

「公募展のふるさと」とも称される東京都美術館の歴史の継承と未来への発展を図るため、公募展に関わる作家を積極的に紹介する「上野アーティストプロジェクト」。今回は、人間以外の自然界の生きものを数十年にわたって追い続け、「うつす」ことに取り組んだ6名の作家たちのまなざしの軌跡をたどる。手で触って鑑賞する作品や「触察」ツールの展示もあり、障害の有無にかかわらず、触覚を使った鑑賞を体験できる。

[日程] 11月16日～2024年1月8日

[会場] 東京都美術館

●「YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング2023」開催のお知らせ

YPAM (横浜国際舞台芸術ミーティング) は、演劇、ダンス、パフォーマンスなどの実演型芸術に取り組み、その創造、普及、国際交流に従事する人々が集まるプラットフォームです。パンデミック宣言直前の2020年2月には45カ国・地域から476名、国内から486名の舞台芸術関係者が集まり3万人以上の一般観客を動員、アジア最大規模の舞台芸術プラットフォームとして国際的認知を得ました。行動制限と分断の中でもライブパフォーマンスの上演と国際的ネットワーキングを継続し、海外からの来場参加者ゼロの時期を乗り越え、会期直前まで入国が制限されていた昨年でも海外29カ国・地域から112人、国内からは360人の舞台芸術関係者が来場しました。今年は更なる来場者数回復が期待されます。

今年のオープニングでは、YPAMの主要プログラムの一つである参加自由の舞台芸術フェスティバル「YPAMフリンジ」をサポートする「YPAMフリンジソサエティ」の設立発表を行います。YPAMでは、今後これまで以上にYPAMフリンジの本質を重視した取り組みを続けていこうと考えています。

主催公演プログラム「YPAMディレクション」では、昨年のワークインプログレス発表を経て、オル太「ニッポン・イデオロギー」をローマシアター京都との共同製作で世界初演。専門家交流プログラム「YPAMエクスチェンジ」では、曹洞宗 大本山總持寺にてレセプションを開催。メイン会場と

なるフォーラム南太田(男女共同参画センター横浜南)ではシンポジウム、プレゼンテーション、ラウンドテーブル、スタジオショーイングを3日間にわたり展開します。横浜と海外の芸術文化団体との特別協力による「YPAM連携プログラム」では規模も内容もさまざまな4企画をご紹介します。

いま・ここでしか体験することのできないライブパフォーマンスがもつローカリティの肯定と、国境を越えた専門家交流との両立を通して、横浜から新しい価値を発信するYPAMにぜひご参加ください。プログラム詳細や参加登録についてはウェブサイト (<https://ypam.jp>) をご覧ください。

●YPAM-横浜国際舞台芸術ミーティング2023

[会期] 2023年12月1日～17日

[主会場] KAAT神奈川芸術劇場、BankART Station、横浜赤レンガ倉庫1号館、曹洞宗 大本山總持寺、フォーラム南太田(男女共同参画センター横浜南)、Amazon Club、YPAMフリンジセンター ほか

[主催] YPAM実行委員会(公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター)

[共催] 横浜市 にぎわいスポーツ文化局

[助成] 公益財団法人セゾン文化財団、公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド、リコー社会貢献クラブ・FreeWill

[協力] BankART1929、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

[後援] 外務省、文化庁、神奈川県、国際交流基金



左:「YPAM2022エクスチェンジ」の様子
撮影:前澤秀登

右:YPAMディレクション
オル太「ニッポン・イデオロギー」
Design by Deokjun Yoon

●神奈川県藤沢市

藤沢市みらい創造財団

〒251-0026 藤沢市鶴沼東8-1

(藤沢市民会館内)

Tel. 0466-28-1135 新沼範之

<https://f-mirai.jp/>

藤沢市民オペラ50周年記念 G.ロッシェニ『オテッロ』演奏会形式全3幕

市民オペラの草分け的存在の「藤沢市民オペラ」が今年で50周年を迎える。現在は園田隆一郎芸術監督の下、3年間で1シーズンとして活動している。2年目の今年、演奏会形式による公演を実施。今回はシェイクスピアの悲劇『オセロ』が原作の名作、G.ロッシェニの『オテッロ』をイタリア語上演・日本語字幕付で上演する。プロのソリストと藤沢市民交響楽団、藤沢市合唱連盟が共演。

[日程] 11月26日

[会場] 藤沢市民会館



藤沢市民オペラ2018-2020シーズン G.ロッシェニ『湖上の美人』(2019年)

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

北陸・中部

●新潟県上越市

上越文化会館

〒943-0804 上越市新光町1-9-10

Tel. 025-525-4103 内山光太

<http://www.joetsu-bunkakaikan.com/>

小川未明フェスティバル2023

「月とあざらし」

上越で生まれ育った日本児童文学の父・小川未明の作品を、市民有志による朗読劇や創作フラメンコ、新作合唱など、多彩なプログラムで表現する企画。今年の題材は『月とあざらし』（1955年）。イベントに先立って読書感想文コンクールを実施しており、当日は表彰式と感想文の朗読も行われる。未明童話の世界を紹介するパネルシアターなど、さまざまな関連イベントも開催。

[日程] 11月26日

[会場] 上越文化会館

●富山県黒部市

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035 (黒部市総合公園内)

Tel. 0765-52-5011 尺戸

<https://kurobe-city-art-museum.jp/>

キュンチョメ展 魂の色は青

ホンマエリとナブチによるアートユニット「キュンチョメ」がフィリピンやハワイを中心に制作した新作11点を公開。海や呼吸の音が聞こえる展示空間で行われるヨガのワークショップ、美術館の立地する公園内での記憶とアイスクリームを交換するパフォーマンスなど、鑑賞するだけでなく自然と出会い直すような体験を促し、身体や呼吸、想像力を通して新しい幸福の追求を行う。

[日程] 10月7日～12月17日

[会場] 黒部市美術館ほか

●静岡県三島市

三島アートプロジェクト実行委員会

〒411-0855 三島市本町2-4
info@manganart.com 山森達也
<https://manganart.com/>

三島満願芸術祭2023

三島市を舞台とした市民参加型の芸術祭。3名の現代アーティスト(辻梨絵子、山本篤、古川諒子)が、三島をリサーチして市民と共に制作した作品を街なかで展示する「作品展示プログラム」のほか、詩のワークショップや市民が企画する街歩きツアーなども実施。人や場所を介して、新しい表現と体験を創出することを目指す。

[日程] 11月11日～26日

[会場] 三島市街中各所

●静岡県掛川市

原泉アートプロジェクト

〒436-0336 掛川市萩間702
haraizumiart@gmail.com

羽鳥祐子

<http://haraizumiart.com/artdays/>

HARAIZUMI ART DAYS !

2023 ～交差する日常～

掛川市北部の中山間地域である原泉地区を舞台に、旧茶工場や空き家、空き施設などを活用し、地域全域を展示会場としたアーティスト・イン・レジデンス・プログラムおよび現代アートの展覧会。今年度は「交差する日常」と題し、4年ぶりの海外招聘を含む計11組の作品を展示し、アーティストと訪れた人との間の日常の交差に目を向ける。

[日程] 10月12日～11月26日

[会場] 掛川市原泉地区全域

近畿

●三重県四日市市

四日市市文化まちづくり財団

〒510-0075 四日市市安島2-5-3

Tel. 059-354-4501 油田

<https://yonbun.com/>

ミュージカル『回転木馬』

四日市市文化会館では初開催と

なる生オーケストラによる本格的なミュージカル。不朽の名作『回転木馬』を、小田島創志による完全新訳で上演。数々の市民オペラを手がけてきた竹本泰蔵が指揮、川口智子が演出を手がける。ソリストとして出演する第一線のキャスト陣に加え、公募オーディションにより選ばれた出演者が参加するなど、多彩なメンバーで作品をつくり上げる。

[日程] 11月4日、5日

[会場] 四日市市文化会館

●三重県津市

三重県文化会館

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 小林由梨佳

<https://m-pad.tumblr.com/>

MPAD2023

三重県内の飲食店や寺院で料理を味わいながら、全国から選りすぐった劇団・ユニットによる文学・古典作品のリーディング公演を楽しむ晩秋恒例のイベント。2011年から始まり13回目を迎える今回は、新プログラムディレクターに志賀亮史(百景社)が就任。また、劇団「theater apartment complex libido:」が初登場するなど、新たな風を取り入れて開催する。

[日程] 11月15日～17日、22日

～24日

[会場] 三重県内飲食店ほか

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 竹之内

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

オペラへの招待 オフエンパック作曲『天国と地獄』

オペラ鑑賞者の裾野を広げることを目的として2007年に始まったプログラム。オペラ通から初心者、子どもから大人までどんな人でも本格的なオペラを楽し

むことができる。今回はオフエンパックの代表作『天国と地獄』を日本語で上演。びわ湖ホール声楽アンサンブルと、一般公募の方も交えた『天国と地獄』合唱団が、耳馴染みのある親しみやすいメロディーも含めた作品をお贈りする。

[日程] 12月21日～24日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●兵庫県養父市

養父市・養父市教育委員会

〒667-0021 養父市八鹿町八鹿538-1

Tel. 079-662-0071 森本実千代

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/bunka/>

YB fab 野外アート展

2021年にオープンした複合施設の芝生広場を中心に開催される野外アート展。2回目の今年度は「心地よい風をうけて」をテーマに、4組のアーティスト(井上信太、大西治・大西雅子、宿南泉、モリン児)の作品を展示。野外の心地よい風を感じながら、作品に触れることもできる。会期中はアーティストトークやワークショップ、特別展「子どもに身近なアートー絵本原画展ー」も開催。

[日程] 11月4日～19日

[会場] やぶ市民交流広場(YBfab)

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

Tel. 0857-21-8700 南條・金井

<http://www.torikenmin.jp/>

MUSIC ENCOUNTER

木嶋真優ヴァイオリンコンサート×とっとりスーパーブラス

とりぎん文化会館開館30周年と長谷育英奨学会設立30周年を記念して行われるコンサート。

第1部は、国際的に活躍する実力派ヴァイオリニスト・木嶋真優のコンサート、第2部は2022年に開催された第1回次世代指揮者コンクールで第1位に選ばれた鳥取ゆかりの指揮者・大井駿が、鳥取県高校生吹奏楽合同チームと共演する。

[日程] 11月5日

[会場] とりぎん文化会館(鳥取県立県民文化会館)

●岡山市

おかやまアーツフェスティバル実行委員会

〒700-0822 岡山市北区表町1-5-1 岡山シンフォニービル3F
Tel. 086-224-1950 岡村晃平
<https://www.ocac.jp/oarts/>

おかやまアーツフェスティバル2023

音楽、美術、舞台芸術、伝統芸能、文芸など、ジャンルの垣根を超えた総合文化芸術により、岡山市の街を彩る新たな文化芸術の祭典として、今年より新たに開催されるイベント。市内のさまざまな場所で、市民が文化芸術にふれる場を提供する。メイン期間初日のオープニングイベントでは、岡山市出身のタレント・浅越ゴエを総合司会に迎えるほか、岡山ゆかりの出演者たちによる音楽や書道、ダンスのパフォーマンスにより開幕を飾る。

[日程] 9月1日～11月26日

[会場] 岡山芸術創造劇場ハレノワ、岡山シンフォニーホールほか

●岡山県瀬戸内市

瀬戸内市立美術館

〒701-4302 瀬戸内市牛窓町牛窓4911
Tel. 0869-34-3130 有吉美里
<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/museum/>

生誕100年記念 竹田喜之助 人形展

岡山県邑久郡(現・瀬戸内市)

出身の人形師である竹田喜之助(1923～79)の生誕100年を記念した回顧展。大学で航空工学を学んだ喜之助の独自の技術が盛り込まれた人形は「喜之助人形」と呼ばれ、生涯で2,600体以上にも及ぶ人形を制作した。当館初の喜之助人形展となる本展では、長野県飯田市が所蔵する喜之助人形のうち、竹田人形座でも使用された代表的な約90点を展示する。

[日程] 10月24日～12月17日

[会場] 瀬戸内市立美術館

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075 山口市巾着町7-7
Tel. 083-901-2222 今野恵菜
<https://www.ycam.jp/>

あそべる図書館 — Speculative Library

「学びの場」としてのアートセンターの可能性を探索する展覧会。大型ドームを起点に、来場者の知識や思い出、アイデアを引き出し、保管し、交換する7つのプログラムを展開。来場者がラジオ番組をつくったり、会話を録音したりすることができる「あそべるラジオ局」、地元アーティストや市民から集めた作品や思い出の品々を展示・貸し出す「どこでもアート鑑賞」など、自由に参加することができる。

[日程] 10月28日～2024年2月25日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]

●高知県高知市

高知市文化振興事業団
〒781-9529 高知市九反田2-1
Tel. 088-883-5071 吉田剛治
<https://www.kfca.jp/kikaku/>

第7回高知市民ミュージカル 『Gift of Life ～にぎやかな植物園～』

かるぼーとのリニューアルオープン記念事業として、11年ぶりと

なる市民ミュージカルを上演。作品は、高知県出身の植物学者・牧野富太郎をテーマにしたオリジナル戯曲。年齢や社会的立場、障害や舞台経験の有無に関係なく「誰もが参加オッケー! みんなで作るミュージカル」の呼びかけの下に集まった90人の市民、20人を超えるサポーターと共に制作。主催事業では初めてとなる観劇サポートも実施する。

[日程] 12月16日、17日

[会場] 高知市文化プラザかるぼーと



『Gift of Life ～にぎやかな植物園～』稽古風景

九州・沖縄

●長崎県長崎市

長崎県美術館

〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 松久保修平
<http://www.nagasaki-museum.jp/>

浪漫の光芒—永見徳太郎と長崎の近代

「銅座の殿様」と呼ばれた長崎の資産家、永見徳太郎(1890～1950)は、南蛮美術の蒐集をはじめ、戯曲などの執筆、写真や絵画も手がけるなど広く芸術文化に関わり、芥川龍之介や竹久夢二なども永見邸を訪れて蒐集作品を鑑賞したという。本展では、永見の絵画や写真作品、南蛮美術を中心とする旧蔵品、交流した芸術家たちの作品を紹介。永見ゆかりの地ツアーや小冊子づくりワークショップも開催。
[日程] 10月14日～2024年1月8日
[会場] 長崎県美術館

●大分県大分市

J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分市金池南1-5-1

Tel. 097-576-8877 古谷祐子
<https://shiminhall.horutohall-oita.jp/>

J:COM ホルトホール大分開館10周年記念『舞踊詩 雨夜の星』

2020年から開催しているオリジナル舞台公演の第3弾。開館10周年記念の今回は「自然(四季)」[輪廻][日本(言葉)]をテーマに、日本列島の自然の彩り、日本語の響きの美しさを、映像と音楽と踊りで表現する。また、これまでの「オールおいた」による舞台創作というミッションを継承しつつ、新たに東京の舞踊家や照明プランナーを加え、「記憶に残る」舞台を目指す。

[日程] 11月26日

[会場] J:COM ホルトホール大分

●大分県竹田市

竹田市文化振興財団

〒878-0024 竹田市玉来1-1
Tel. 0974-63-4837 伊達奈都紀
<https://www.city.taketa.oita.jp/glanz/>

新解釈オペラ・竹田版『マダム・バタフライ』

2020年度から多くの講座やフィールドワークを続けてきた竹田版『マダム・バタフライ』プロジェクト。3年目を迎える今年、集大成となるオリジナルの新解釈オペラを上演する。『蝶々夫人』を土台としつつ、日本語での台詞や驚きの展開など、オペラ初心者でも楽しめる新感覚の作品を目指す。キャストには大分ゆかりの声楽家が集結し、コーラスは市民を中心とした公募による合唱隊が務める。

[日程] 12月3日

[会場] 竹田市総合文化ホール(グランツたけた)

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●秋田県秋田市

あきた芸術劇場ミルハス

〒010-0875 秋田市千秋明徳町2-52

Tel. 018-838-5822

<https://akiat.jp/>

◎2022年6月1日オープン



秋田県民会館と秋田市文化会館の老朽化に伴い、両施設の機能を継承し、秋田県と秋田市が共同で整備した文化施設。大ホールは、秋田県民会館の後継施設として、高い音響性能と舞台機能を併せ持っており、あらゆるジャンルの音楽やミュージカル等に対応可能で、中ホールは、秋田市文化会館の後継施設として、演劇、ダンスを中心とする演目に対応できる臨場感を重視した舞台設備を備えている。

さらに、公演の稽古やリハーサルなど多様な用途に対応する2つの小ホール、県民・市民の身近な文化芸術活動の場となる創作室や練習室、研修室などが設けられており、秋田の新たな文化芸術の創造拠点として期待されている。

[オープニング事業] グランドオープン記念特別公演(演奏: 新日本フィルハーモニー交響楽団)ほか
[施設概要] 大ホール(2,007席)、中ホール(800席)、小ホールA(約200席)、小ホールB(約160席)、練習室9室、創作室5室、研修室3室、カフェレストラン

[設置者] 秋田県、秋田市

[管理・運営者] あきた芸術劇場 AAS共同事業体

[設計者] 佐藤総合計画・小畑設計共同企業体

●静岡県磐田市

磐田市民文化会館「かたりあ」

〒438-0831 磐田市上新屋678-1

Tel. 0538-37-8550

<https://www.kataria.jp/>

◎2022年7月30日オープン



老朽化により2020年に旧市民文化会館が閉館し、周辺に文化的施設が集まるエリアに新たに開館。

愛称の「かたりあ」は、公募により選出され、「語り合う」とラテン語で場所を示す「イア」を合わせた造語で、来館した人々がさまざまな催しを楽しみ、その感動や思いを心ゆくまで語り合えるような場所となるよう願いが込められている。

約1,500人を収容するホールは、音楽をはじめ演劇・ミュージカルなど多目的に利用でき、千鳥配置の座席は、県内でも有数のゆとりある間隔で、多面体形状の壁面が豊かな音の広がりや、クラシック音楽にもふさわしい残響を生み出し、客席の一体感と音響を両立している。

そのほか、小規模の講演でも利用できるリハーサル室や、遮音構造で音楽練習など多様な利用が可能な創造活動室を有し、市民の文化活動を支える場となっている。

[オープニング事業] 人間国宝野村万作・萬斎による狂言「三番叟(さんばそう)」ほか

[施設概要] ホール(1,508席)、リハーサル室、創造活動室4室ほか

[設置・管理・運営者] 磐田市

[設計者] (株)石本建築事務所

●鳥取県境港市

境港市民交流センター(みなとテラス)

〒684-0033 境港市上道町3000

Tel. 0859-46-0471

<https://minato-terrace.jp/>

◎2022年7月10日オープン



老朽化・耐震強度不足に伴い解体された市民会館跡地に、「市民が集い、安心できる、交流と防災の拠点」を基本理念として整備された、市民交流センター・市民図書館・防災の3つの機能を併せ持つ複合施設。

3階建ての建物には約800人収容の市民ホールと図書館、会議室やカフェ、災害対策本部を設け、災害時には避難所としても活用する。ホールには市出身の漫画家・水木しげるが描き下ろした鬼太郎たちと魚やカニをあしらった緞帳を備えるほか、ホワイエには旧市民会館から移設された備前焼のレリーフが飾られ、市民に親しまれている。

今後は市民相互の交流や多様な自主事業を展開するとともに、あらゆる人に開かれた“テラス”のような場所として、誰もがいつでも気軽に利用することができる施設を目指す。

[オープニング事業] ふれあいコンサートin境港 ほか

[施設概要] 市民ホール(560m²)、大・中会議室、リハーサル室兼小会議室、市民図書館、カフェ ほか

[設置者] 境港市

[管理・運営者] きさらぎ・さんびる共同企業体

[設計者] 石本建築・あおい総合設計共同企業体

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

石川県珠洲市 金沢21世紀美術館 「劇的!バスツアー 2023」



上: 地元住民の解説により塩田千春「時を運ぶ船」を鑑賞する高校生たち
下: さわひらきを囲んで熱心に質問

● 劇的!バスツアー

2019年開始。高校生や15～18歳のユースを対象にした日帰り鑑賞ツアーで、これまでロームシアター京都や富山県利賀芸術公園などを訪問。鑑賞代は無料で、今回の芸術祭への旅行代金は1,500円(昼食代)。過去の参加者にはその後、本格的に表現の道に進んだ人も。

● 奥能登国際芸術祭

能登半島の先端・珠洲市の全域約247km²を舞台に、2017年から3年に1度開催されている「さいはての芸術祭」。総合ディレクターは「瀬戸内国際芸術祭」なども手掛けるアートディレクターの北川フラム。かつて海上交通の要所として栄えた文化背景や、伝統のキリコ祭りなども生かした内容を展開。3回目の今回は16の国と地域から54組が参加。今年5月5日に発生し、大きな被害をもたらした「奥能登地震」からの復興も後押しする。

● 劇的!バスツアー2023

【会期・会場】9月23日: 奥能登国際芸術祭2023 / 11月5日: ロームシアター京都(太陽劇団(フランス)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』を鑑賞)
【主催】金沢21世紀美術館(公益財団法人金沢芸術創造財団)

高校生(15～18歳のユース)を対象に、日帰りでの芸術体験を提供する金沢21世紀美術館(以下、21美)主催のプログラム「劇的!バスツアー」。9月23日、その一環として、石川県珠洲市で開催されている「奥能登国際芸術祭2023」へのツアーが行われ、石川県と富山県の高校生24人が参加した。

同ツアーの始まりは2019年。21美ではそれまで、美術館に親しむための小中学生向け企画を複数実施してきたが、高校生に向けた企画は手薄だった。そうしたなか、館内の「シアター21」も担当する学芸部交流課が劇場の潜在的な観客を育てようと、この企画を考案。以後、コロナ禍の苦境のなか、富山、福井、京都、兵庫などの施設を訪れ、毎年2～3公演を鑑賞してきた。日常を離れてわざわざ遠方を訪れる理由を、プログラム・コーディネーターの川守慶之さんは「作品だけでなく劇場を訪れるプロセスの楽しさも知ってほしい」と話す。国際性の高さや視野の広がり基準を訪問先を選んでおり、現代アートの展示は今回が初となった。

ツアー当日。参加者、添乗員、21美のスタッフ6名、取材班を乗せたバスは、JR金沢駅前を朝7時半に出発。車内では自己紹介が行われ、各学校で演劇部やデザイン科などに所属する生徒と大人が好きなアーティストや音楽を発表し合い、盛り上がった。

能登半島を2時間半かけて北上し、最初に到着したのは半島外側の海岸に面した大谷地区にある旧清水保育所。ここには、かつて同地でも盛んだ製塩業に着想を得た塩田千春の作品が展示されている。塩作りで使われる砂取舟から無数の赤い糸が溢れ出した会場に入ると、参加者から「わあ!」と歓声が。写真を撮ったり制作映像に見入ったりと、体験を重視する現代アートの「受けの良さ」をさっそく実感させた。

珠洲市は1954年の市制施行から約2万人が減り、現在は1万2千人が暮らす本州で最も人口の少ない市だ。参加者には珠洲が初めての人も多く、途中で合流したガイド役の南方治さん((一社)サポートスズ理事長)から地域の学校の

小・中学生の少なさを聞くと驚く場面もあった。廃校を改装したスズ・シアター・ミュージアムでは、そんな土地で使われていた生活用品による大型作品を体験。他の地域の暮らしを風景の中で直に感じる芸術祭の醍醐味を味わった。

同行中に特に印象的だったのは、高校生と参加作家のやりとりだ。旧日置公民館では金沢出身のさわひらきが祖父母の経験に基づく映像インスタレーションを展示。鑑賞後さわを囲むと、参加者から「なぜ複数の画面で映像を流すの?」などストレートな質問が次々飛び、作家から新鮮な答えを引き出した。蛸島地区の古民家に設置された田中信行の漆の立体作品の前では、漆表現の独創性に関する質問を受けたベテラン作家が「若い頃の作品はなかなか超えられない」と本音を覗かせる一幕も。人生の岐路に立つ若者の問いの熱は、同じく真剣に生きる表現者にも伝わっていた。

最後に訪れた飯田地区では、商店の看板の個性的な文字からオリジナル書体をつくる「のらもじ発見プロジェクト」を鑑賞。デザイナーの下浜臨太郎による日常の光景を起点にしたものづくりに、参加者も興味津々だった。今回話を聞いた作家には、それぞれアート、工芸、デザインという幅広さがあった。通信制の学校に通う金沢の高校1年生は、1日を振り返り「芸術祭は初めてだったが、思っていたより多種多様な作品に触れられて良かった」と感想を述べた。見せてくれたスマホの待ち受け画面はさっそく、「身近なものなのに不思議な世界が広がっている」と感銘を受けたという、さわの作品の写真になっていた。

一般に難解と言われる現代アートだが、既成の枠組みを疑って世界や個人の意味を問うその姿勢や、斬新な視覚性は、多感な高校生にこそ響くかもしれない。質疑応答のなかでさわが、自身の10代の頃には身近になかったユースと現代アートの出会いを讃えていたように、終始新鮮な反応が見られた奥能登への旅は、参加した高校生だけではなく同行した大人たちにとってもアートの可能性を再認識させる素晴らしいものだった。(ライター・杉原環樹)